

つながれば、見えてくる。

AI時代のジャーナリズム

ELSI大学サミット（2025年3月15日）

代表取締役社長

角田 克

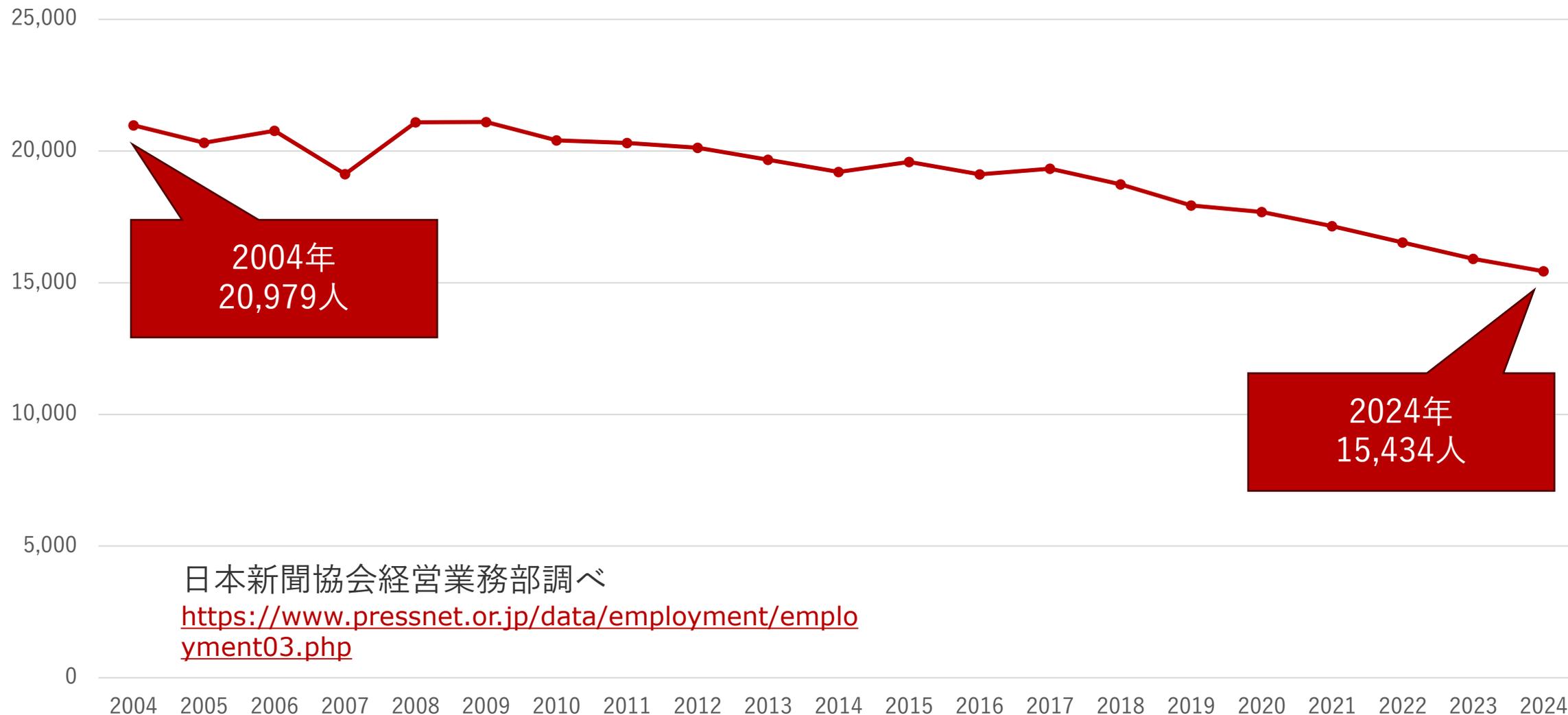
朝日新聞社

① AIを活用する

② AIを監視する

③ 記者が取材する

①AIを活用する（減少する記者）



PRODUCT

ALOFAとは

音声認識と自然言語処理の最先端テクノロジーを搭載した、次世代のコンテンツ制作トータルサポートツールです。

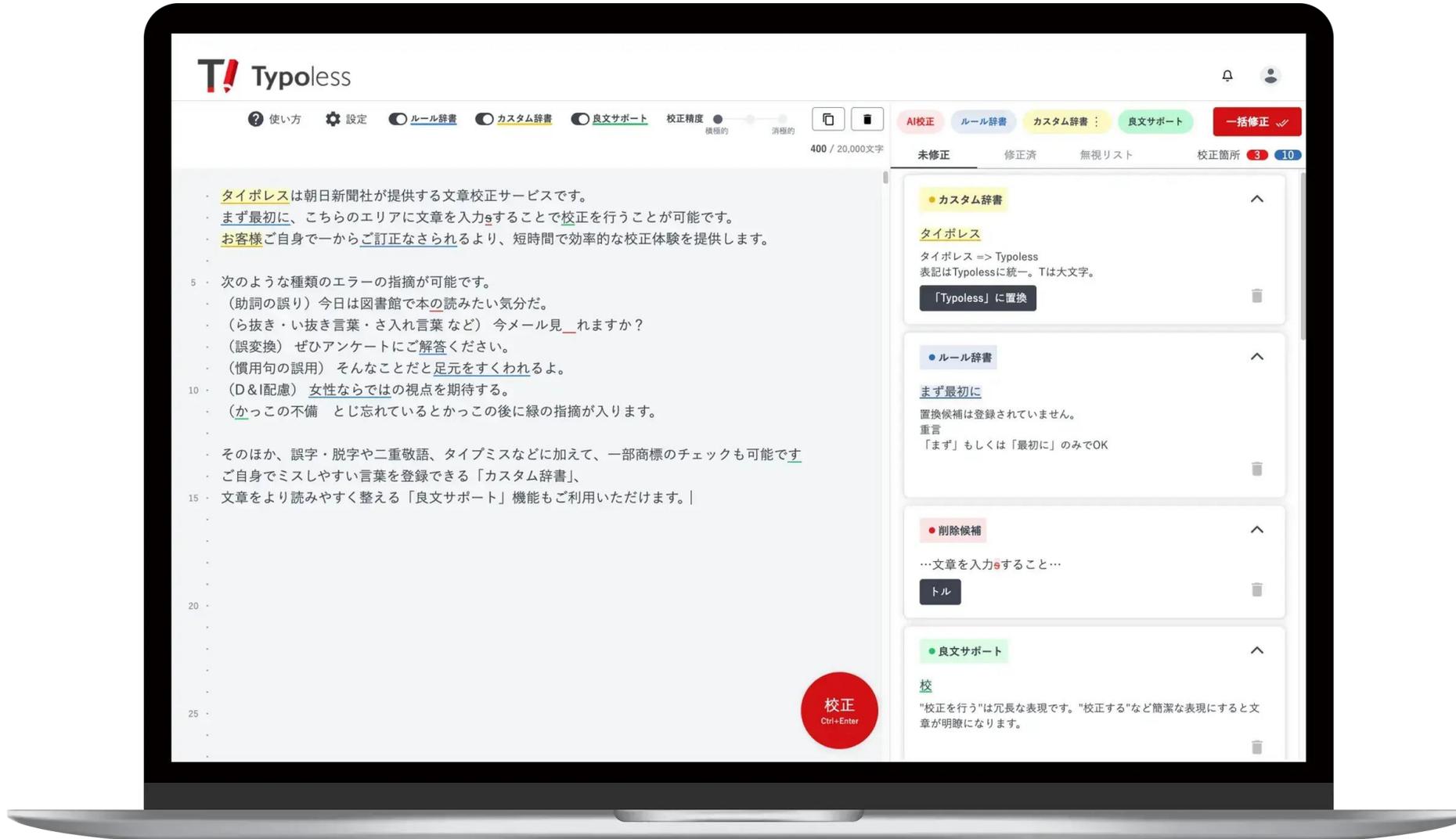
独自開発の高精度な文字起こしにより、取材音声をすばやくテキスト化。面倒な文字起こし作業を自動化し、制作時間を大幅に短縮します。

ベータ版では、文字起こしを中心としたサービスをご利用いただけます。今後さらなる機能の追加や改善を行い、正式リリース時には料金プランが変更される可能性があります。



<https://alofa.asahi.com/>

①AIを活用する (Typoless)



<https://typoless.asahi.com/>

- AIは人間と同等、人間を超える知能を持つ可能性
→新たな「権力」
- メディアは専門家と協力してAIを監視する
- AIによって新たに生じる課題を伝え、共に考える
- SNS空間で広がる偽情報が、AIによって巧妙化
メディアよるファクトチェックも重要な役割

- AIは人に会ったり、現場に行ったりできない
- AIの性能が高まるほど、記者自ら取材する価値が高まる

- 報道コンテンツは、膨大な労力とコストをかけて作成
- AI検索などでは報道コンテンツが無断利用され、記事と類似した回答が生成されるケースが確認されているほか、一部では誤った回答も
- 報道コンテンツは知的財産として、利用にあたっては必ず各社の許諾を得て、適正な対価が支払われなければならない
- 生成AI事業者、政府に対しても引き続き、改善を要請

https://www.pressnet.or.jp/statement/broadcasting/240717_15523.html



わたしたちのパーパス

つながれば、見えてくる。

**ひと、想い、情報に光をあて、結ぶ。
ひとりひとりが希望を持てる未来をめざして。**